

DIFAR vol. 13

Desarrollo Integrado Familia Rural

発行責任 〒515-3421 三重県津市美杉町八知1383 瀧本 規久子

Tel/Fax 050-7000-2219, 090-1824-1834

E-mail somaya.takimoto@za.ztv.ne.jp

DIFAR とは、「農村を対象とした総合的な発展の為の支援」の西語訳 Desarrollo Integrado Familia Rural の頭文字の略で「ディファル」と読みます。2003年に協力隊O

Bが発足し開発途上国であるボリビアの農村地域社会の人々が今日の家族の安心を得、明日の家族の希望が持てるような支援を願って活動が展開されています。

エコサントイレプロジェクト・生ごみリサイクルプロジェクト en COMARAPA 終了！！

南米のボリビア国サンタクルス県コマラパ市で始まっ

た村落に住む住民の生活向上の為のプロジェクト。

エコサントイレ建設は2004年から開始、生ごみリサイクルプロジェクトは2007年から開始しましたが、2011年4月を持って終了しました！成果は・・・エコサントイレ523基 13村に建設。生ごみリサイクルプロジェクトはコマラパ市の住民850家族が参加し、16t/月の生ごみを回収して、堆肥づくりを行っています。

家庭内での生ごみ分別→週一回の回収→堆肥場での堆肥作りもすっかり定着し、他の市や村からもたくさんの方が見学に来ています。今後はDIFARスタッフが市の環境職員として雇用されプロジェクト終了後も市が継続していきます。



リサイクルセンター（2011年建設）に収集した生ごみをトラックからおろすスタッフ

トイレ使っています！ありがとう！現地の声・・・



リオアリーバ村（2009年建設）のノラスコ家族

2004年から一人のおじいちゃんの善意から始まったプロジェクトは毎年、日本からの支援で希望する家族の家に次々とトイレが建てられていきました。地元市役所も、日本の支援を受けて予算を組み2010年には目標としていた500基に達成しました。

トイレで用を足す習慣がない村の人たちは、まずトイレの必要性をしっかりと学びトイレの使い方を理解しました。特に子供たちはすぐに習慣を変える事ができトイレを嬉しそうに使っています。

～現地の子供たちの声～ “最初はトイレの穴がこわかったけどもう慣れた” “トイレができてうれしい”

”学校や教会にも作ってほしい” “お父さんたちは使わないけれどぼくはトイレを使うのが楽しい” “2010年は、今まで建設した全トイレのモニタリングを行いました。

今迄支援してくださった日本の個人、団体の皆様 本当にありがとうございました！！

～現地スタッフレポート～

プロジェクト開始から殆どの期間、一緒に考え、奮闘してきた2人のボリビア人スタッフです。働き始めた時はまだ独身、新根だった彼らも、今では共に2児の父親になりました。ネイエルさんは、社交的で積極的に意見を言い、アイデア豊富なタイプ。イポリトさんは、寡黙に黙々と作業をする技術者タイプ。この二人に支えられDIFARも大きくなったと思います。

HIPOLITO PUMA MAMANI (28歳)イポリト プマ ママニ

プロジェクトが導入前は、多くの村落に住む住民は経済的な事情や、意識の低さなどから各家にトイレはなかった。水洗トイレは、コストが高く、また水も年中ない事や村に蔓延する感染症が実は自分たちが野外で用を足すことで、その感染ルートを作っているとは思いませんでした。乾季には水が枯渇する事で、水は貴重なものとなり衛生状況も悪化する。トイレを使用しないで野外で用を足すという事が彼ら自身も知らな

うちに周囲の衛生環境、自然環境を汚染し、特に下痢で子供たちや老人たちが弱っている環境を作り出していた。以前「トイレ」は彼らの中で優先順位が低く、それより食糧、水、屋根のある家屋、仕事が優先だった。

トイレプロジェクトでは家族に対し各テーマで何度もわたるトレーニングを巡回訪問で行い、それを受けた家族達はまずトイレの重要性を理解した。ただ、トイレを建ててもらおうというだけでなく、このプロセスはとても重要だと思う。また家族全員の参加を促し子供にも老人にも、字が読めない人にも、電気がない家も(ほとんど)スペイン語ではなく先住民の言葉しかしゃべれない家族にも丁寧に対応し、トレーニングを行った。

またこのトイレの利点は、水が一切必要なく家族が入手できる、カマドの灰や、乾いた土、石灰などを混ぜて使える事がお金のかからないトイレで彼らにも容易に使用できる。

また、支援で建てた基礎部分以外は家族が壁部分を自己負担しなければいけなかったが、コストはそう多くなかった為多くの住民が参加できた。何より農家である彼らの関心はトイレの副産物である尿と、人糞堆肥であった。トイレを建てて衛生状況の向上と堆肥による栽培の向上が達成できたと言える。とても素晴らしいプロジェクトだと皆言うし、僕もそう思う。

生ごみプロジェクトは、DIFARが2011年の3月30日をもって撤退後、コマラバ市役所がこのプロジェクトを全面的に運営を行っている。表面的には、回収、堆肥作りとDIFARが引き継いだ時点と同様継続しているが、私たちはしよせん一職員であり、経済的にも自立していない活動であるため予算の配分や、今後市がどのように位置づけしていくのがわからなく意見も言えないのが今までのDIFARスタッフで仕事してきたのと大きな違いだと言える。最後になりましたが、いままで支援を続けてくださった日本のみなさん本当にありがとうございました。このプロジェクト期間中、とてもやりがいのある仕事を任せられ技術も覚え、とてもよい経験になりました。コマラバ市にとっても、自分にとってもこの支援は本当に意味があるものだったと思います。

皆様の幸せを遠いポリビアより祈ります。

Neyer Hinojosa 29歳 ネイエル イノホーサ

コマラバ市はこのDIFARを通し日本から大きな支援を受けた。もっとも受益したのはコマラバ市に属する小さな村落だ。この支援により住民たちは衛生面、健康面、知識面で向上する事ができた。DIFARが選んだ地域は90%から100%の住民がトイレを持っていなかったのだ。コマラバ市は最初特に関心を示さず重要性を理解していなかったが、毎年日本からの支援で次々とトイレが建ち市も予算をつけるようになった。(略) 支援者の人たちは怒るかもしれないがせっかく建てたトイレを使用しない家族もいる。今では村落にもガスが普及し、薪で煮炊きしなくなった事で灰が出なくなったのだ。またDIFARが撤退したと同時に市役所が約束していた新規建設も頓挫している。希望する家族は多くいるのだが、市長が交代してしまってから優先事項が激しく変化しそれに振り回されている。

しかし多くのトイレを建てた住民は心から支援してくれた日本人たちと現地で実行したDIFARに感謝している。今でも僕はいろんな人にDIFARや里子について訊ねられる。「今はどこの村を建設しているんだ?」と聞かれたときは少し悲しくなる。もうどこも建設していないからだ。彼らにとって今までトイレが無かった暮らしからある暮らしへと変えてくれたこの支援は一生忘れる事がないと思う。子供たちにとっては一生が変わる大きな教育といってもいい。自分の親が使わなくなっただけ自分の家のトイレを誇らしげに見せてくれる。メンタリティが変わったのを感じる。私からも本当に感謝の意を示したい。いつもトイレで「トイレを建ててくれてありがとう」と多くの人から声をかけられるがこの声を聴くべきは支援してくれた日本人たちだ。僕にとって皆に「ありがとう」と言われる仕事につけたことは本当に幸せな事だった。

生ごみリサイクルプロジェクトは大きな注目を集めている。ごみ分別は今ではすっかり定着しよう以前には戻れないだろう。

コマラバ市に移行したことで課題は沢山あるが、今後は一職員として支えていくことになる。

僕が一番長くDIFARで里子と共に活動し、日本から来たYUTAや橋本さん、YUKIKO達から直接学ぶことができた。DIFARがコマラバ市から撤退する時は本当に信じられずどこまでもDIFARについていきたい気持ちだった。

今迄この活動を支えてくださった日本の皆さん、今年は日本は大変な災害に見舞われましたがどうぞ力を合わせ頑張ってください。またいつかDIFARと仕事ができるといいですが今は仕事を頑張りたいと思います。皆さんの幸せと明るい未来を祈ります。

DIFARのこれから・・・

ごみリサイクルプロジェクト EN バジエグランデ

コマラバ市で導入した生ごみリサイクルプロジェクトは周囲の市や県外からも見学、問い合わせが多くあります。

その中で、コマラバ市から3時間ほど離れた隣の市 バジエグランデ市は関心が高く市長自ら3回も見学に訪れ、1か月間の職員の研修(コマラバ市にて)を実施するなどプロジェクトの導入を強く希望していました。

DIFAR はポリビアにある JICA ポリビア事務所と何度か協議した結果(現地視察も行われた)、バジエグランデ市を対象にした”ごみリサイクルプロジェクト”を”NGO 草の根パートナーシップ”資金に申請しました。その結果 プロジェクトを実施する事が決定しました。

バジエグランデ市が抱えるごみ問題とは??

バジエグランデ市は、DIFAR がすでに実施した1200家族が住むコマラバ市より規模が大きい**1800家族**が住んでいます。海拔2000mにある市で亜熱帯平原とアンデス地帯の中間に位置していて、気候は温暖、牧畜が盛んな町です。

ポリビアの殆どの市がそのように、ごみ処理に対するシステムは存在せずごみはただただ市外の空いている土地に投棄されていきます。トラックで運ばれ山のようなごみは年々大きくなるバジエグランデ市のすぐ側までできています。ごみの内容も昔とはちがいます。有機物中心だったごみから安易に手に入るプラスチックごみが多く「リサイクル」の知識もシステムもないためごみは増えるばかり・・・。行政も住民の意識改善も含めてどのように対処したらよいかわからない状況です。

バジエグランデ市は日本人も良く知る「**チエゲバラ**」が最後にゲリラ生活を送り、最期を迎えた場所でもあります。カーニバルやチエゲバラにちなんだ日は通常の**3倍**に町の人口が増えその時のゴミの対策も何もないため町はごみだらけの町と化します。

前は買えなかった車を買える、子供を学校にやれる・・・と物が増え、生活が豊かになっていく一方でごみは増えるのに、人々の意識は環境や、ごみに関してはとても低い・・・と言っても周りを見渡してみても同じようなレベルでどこをどうしたらよいかわからないのが抱えている問題です。ごみ処理場でごみをあさる人たちの問題もあります。

プロジェクトの目標は?

まずは**意識改革**から・・・。ポリビア人は日本では考えられないような「ポイ捨て」をします。バスに乗ったら窓から紙オムツを捨てるのには驚きました。市民の80%を目標に細かな啓蒙活動やトレーニングを行う事でごみや環境に対する知識を学び**自分たちが住む町づくり**に参加します。

バジエグランデ市内で現在は100%投棄されているごみを40%減量する事で投棄場の寿命を延ばし、特に汚染の原因となっている有機物を新鮮なうちに回収、堆肥化を行います。

プロジェクト期間中はうまく機能しても、**プロジェクトが撤退したら継続しない**・・・というのでは投入したお金も、期間も全く無駄になってしまいます。行政としての強いニーズがあるのですから、押しつけでなく持続できる形での新しいごみ処理システムが求められています。

DIFAR の役割は?

今回、プロジェクトをメインで進めるスタッフはバジエグランデ市の職員や新規で雇う人員もバジエグランデ市の若者を予定しています。

コマラバでは DIFAR が前面に出て進めてきましたが、5年後の撤退を常に念頭に市と二人三脚で進める為にも DIFAR スタッフは**瀧本のみ**。

現場に張り付くのではなく、一歩下がってあくまでもファシリテーターとしての役割をしていきたいと思っています。

今後、コマラバ市、バジエグランデ市とこのプロジェクトが軌道に乗れば少なくとも近隣の5つある大きな市も導入を希望する事と思います。

JICA からの大きな投入がなくても、適切なごみ処理ができるような提案ができる、それとも DIFAR はいっその事ごみ処理業者になってしまう??

まだ、これからはわかりませんが現地で必要とされる事を現地の人たちをメインに、お手伝いする事をさせてもらいたいと思っています。

日本発の NGO でもあり、皆さんの応援でいままでも継続、成長してきました。

今年は、日本も震災がありそれにとまなう色々な問題がたくさんあると思います。今まで、他の人の事を考えるゆとりがあった生活から一変してしまった人も多い事かと思えます。私も、震災後日本人として「支援ってなんだろう?」「国際協力がってなんだろう?」と考える日々です。

でも、今わたしがここ(ポリビア)にいて、必要とされているプロジェクトがあり、日本人として日本に発信していく、それが私にできる事がなと思っています。できる範囲でいいと思います。DIFAR の活動を見守り支援していただけたら・・・と思います。

日本の事務局より

今年は 何もお知らせする事なく、日が経ってしまっ申し訳なく思っています。バジエグランデでの事業を行う為に、NPO法人格が必要となり、11月に認証され 登記をしました。これからは「非営利活動法人 DIFAR」となります。

理事会のメンバーの紹介をさせていただきます。

理事：畑 守・瀧本 里子・坂本 朝江・伊藤 基子・瀧本 幸弘・山田 ロサリオ。

監事：大西 康之

2013年3月までの任期です。お世話になります。

●収支決算報告

2010年度

DIFAR決算書

91円/ドル

単位:円

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
前期繰越金	2,806,486	物品購入費	39,469
受取利息	462	支払手数料	33,945
会費	417,850	通信費	5,140
国際ボランティア配分	15,309,000	旅費交通費	283,240
事業収入	240,100	商品購入	221,800
雑収入	126,979	雑費	1,409,930
		(現地活動費)	
		堆肥場建設費	10,160,925
		堆肥づくりの為の道具一式	109,269
		一次・二次処理用材料費	1,177,410
		一次・二次処理用バケツ代	1,004,659
		ごみ回収費(ガソリン代・車両借上げ)	312,189
		現地事務所家賃	210,809
		現地スタッフ人件費	1,301,299
		講習会費	106,671
		スタッフ 滞在費(2名分)	1,291,859
		看板費	37,193
		事務費	54,329
		車両費	206,312
		手数料(送金受取・両替)	105,817
		次期繰越金	828,612
合計	18,900,877	合計	18,900,877